



あと一步の向上に向けた取組

函館市立深堀中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- (1) 「他を認める風土」が培われるような、生徒同士、生徒と教師の人間関係づくり
 - ・学級活動、当番活動、集会活動、学校行事、日々の授業等様々な場面で、本人や集団の頑張りを賞賛する雰囲気を作る声かけや働きかけを行った。
- (2) Q-Uの実施
 - ・Q-Uを実施し、生徒の傾向や学級組織の状態を把握し、様々な情報を共有することに努めた。
- (3) 学年内での生徒・学級の実態について情報共有・計画的組織的な働きかけ
 - ・生徒指導交流会や教科部会、学年部会を通して、多角的に生徒の様子を把握できるように努めた。

2 取組の概要

学力の向上を目指す上で、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢をもつことが肝要であり、そのためには生徒がそのように実感できる授業の構築、実践が重要になる。良好な人間関係を土台とした上で、学び合い活動を取り入れた授業を実践することで生徒同士が、関わり合いをもち、学習することの楽しさや達成感・成就感を実感でき、更には意欲的に学習に取り組もうとする気持ちを育む上での効果が高いと考えられる。そこで次のような実践を行った。

- (1) 教科の特性に応じた授業形態の工夫や学び合い学習の実施
実践例 運動における協同の経験を通して、互いの技量を高め合う授業 (第3学年 保健体育科)
教材名 「マット運動 模擬シンクロ発表会 ペア演技のシンクロ技をより高めよう。」
- (2) 家庭学習に対する共通認識と課題の洗い出し
 - ・家庭学習に対する押さえ方や捉え方を洗い出し、共通理解を図った。
 - ・どのような方法で家庭学習を実施するのか、本校生徒の実態に即した方向性を提示した。
- (3) 家庭学習の実態把握と実態をもとにした手立て
 - ・学期ごとの「家庭学習記録週間」を設け、全校的に取り組む。同時に、生活実態調査も兼ねて実施し、食事や睡眠、学習時間などの改善が図られた。

3 成果（○）と課題（●）

○成果

- ・生徒指導交流やQ-Uによる学級集団の傾向を共通認識することで、人間関係の把握や指導のポイントの共通を図ることができた。
- ・各教科で学び合い活動を取り入れた授業を展開することで、生徒が相互にコミュニケーションをとろうとする意欲が向上した。
- ・全教員による授業発表（交流）を通して、様々な視点からの意見感想をもとに、授業改善に努める姿勢がよりでてきた。
- ・家庭学習記録簿の記録を行うことで、生徒自身が自分の生活を振り返るとともに、家庭での学習の実態把握が図られた。

●課題

- ・学び合い活動を取り入れた授業をより効果的に行うために、教科部会で成果と課題について分析し、学年間の系統も考慮した教科指導計画の工夫が必要である。
- ・家庭学習記録簿をより有効に機能させ、学校と家庭との連携を深めながら、家庭学習の習慣化を目指す取り組みを図る必要がある。